



ふっさっ子の学びが「新時代の学び」へ！

新時代の学びに向けた一人一台端末貸与について

福生市教育委員会では、**GIGAスクール構想の実現**に向けて、市内小・中学校の全ての子どもたちに、**学校や家庭学習で活用**できるよう、**児童・生徒一人一台端末を貸与**します。

目指す姿は、児童・生徒**自ら考え、主体的に問題解決できる力を身に付けるためのツール**として、**ICTを活用**することです。鉛筆やノートを使うのと同様、日常的にタブレット端末に触れながら、子どもたちが**自律的に利用をコントロール**できるように、情報モラルを含めた**情報活用能力を育成**していきましょう。



文部科学省：「学校における1人1台端末環境」公式プロモーション動画（YouTubeへリンク）

検索



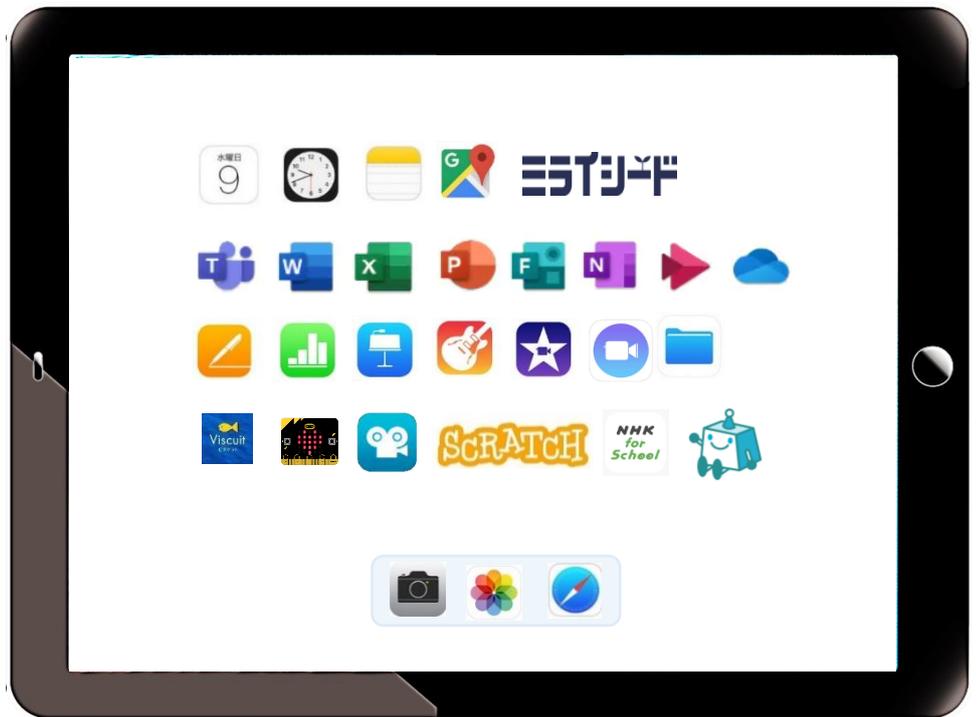
iPadに搭載予定のアプリは…？



【付属品】

キーボード付一体型
ケース、タッチペン、
USB充電アダプタ、
USB充電ケーブル

※ 現在の小学校第3学年については、令和2年度中は、現在貸与しているiPadを使用し、令和3年度に本iPadを貸与します。



※画面はイメージです。実際とは異なります

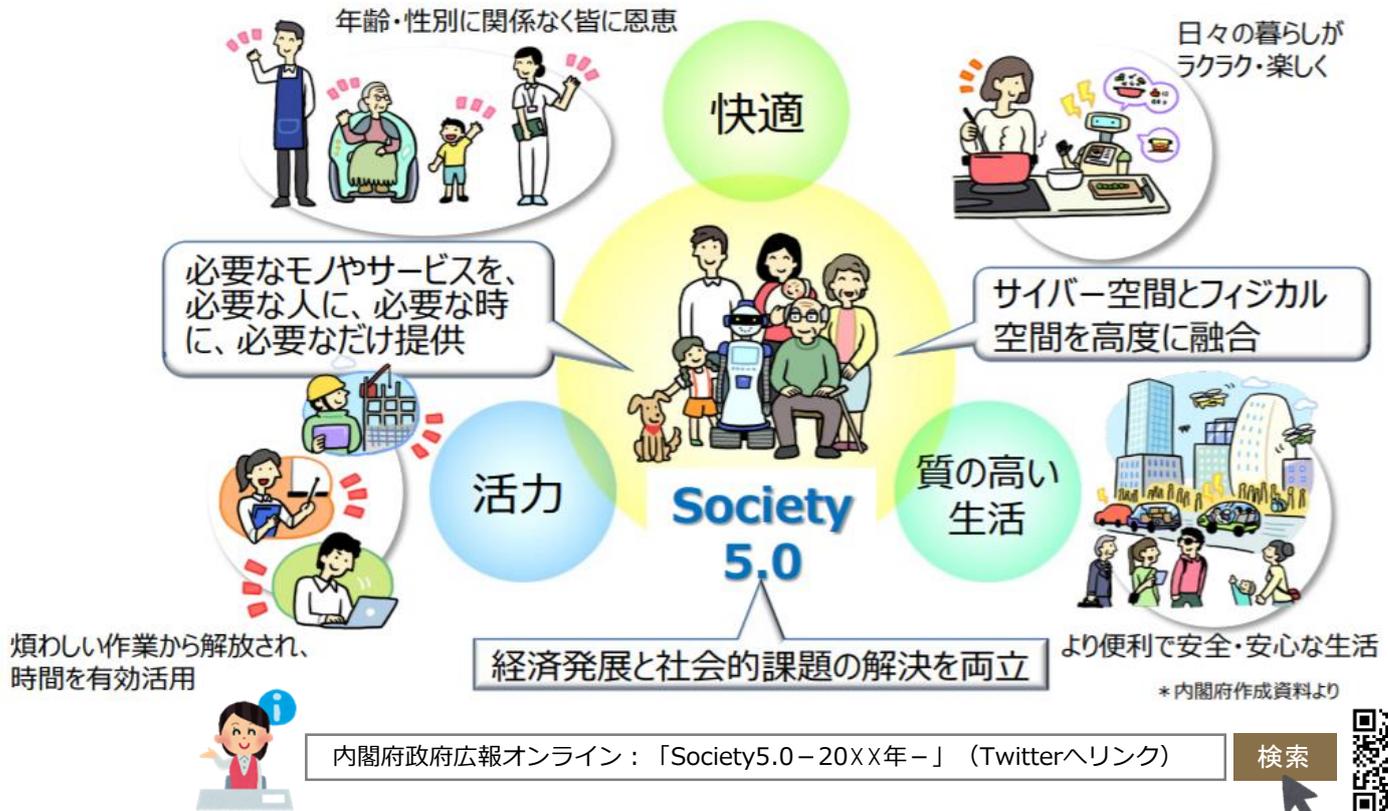
先生方にとっても、こんなことが変わります！

- 振り返りや成果物などをデータで提出させることで、子ども一人一人の変容を見取ったり、評価材料を蓄積したりすることができます。
- ドリルを活用することで、採点時間の削減や、全体や個々の学習状況の把握・分析、学習状況を瞬時に可視化することで、指導に生かすことができます。
- Microsoft365やミライシードを活用し、ワークシートを印刷する必要がなくなります。



新たな社会 Society5.0

- IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボット等をはじめとする**技術革新が一層進展**。
- サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、**経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会**。
- 幅広い産業構造が変革し、**人々の働き方やライフスタイル等が変化**。
- 狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、5番目の社会（Society）。



学習指導要領の背景・趣旨

新しい価値やサービスが創出され、人々に豊かさをもたらす新たな社会Society5.0の到来
➡ 暮らしはたらし方も変わる

来るべき未来の予測

「今後10年～20年程度で、**半数近くの仕事が自動化**される可能性が高い」

マイケル・A・オズボーン准教授：※英・オックスフォード大学

「子供たちの多くは将来、今は**存在していない職業**に就く」

キャシー・デビットソン教授：※ニューヨーク市立大学大学院センター

“今、学校で教えていることは、時代が変化したら通用しなくなるのではないか”
“人工知能の急速な進化が、人間の職業を奪うのではないか”といった不安の声

予測できない変化を前向きに受け止め、**主体的に向き合い・関わり合い、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるための力を子どもたちに育む学校教育の実現を目指す。**

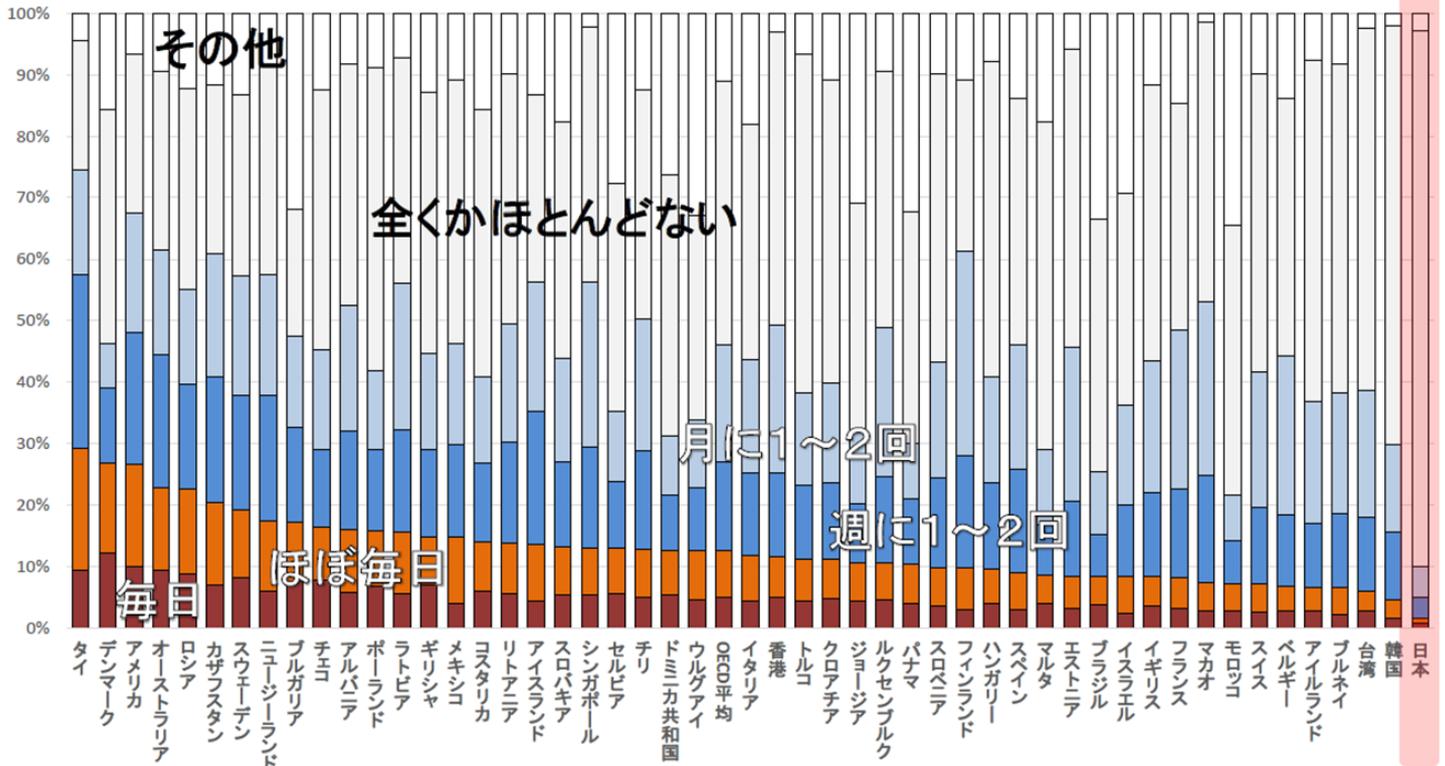
学習指導要領改訂の方向性

出典：「『GIGAスクール構想の実現とは』～学校情報化の目的と概略～」

OECD諸国と比較した日本の子どもたちの現状

OECD生徒の学習到達度調査（PISA2018）の結果

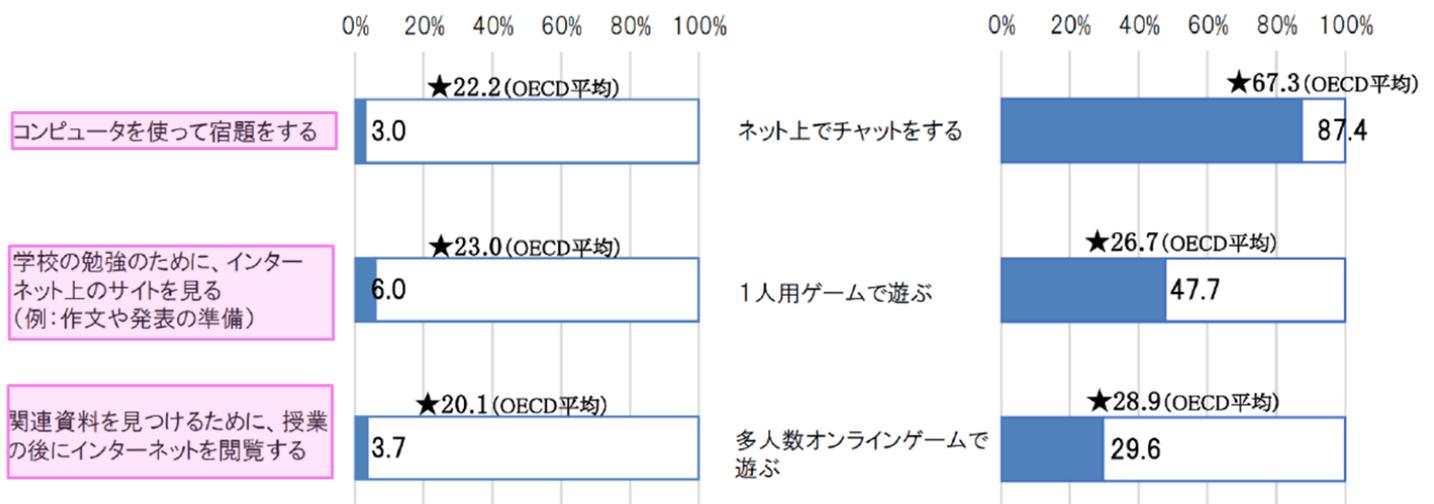
学校での使用頻度：ほかの生徒と共同作業をするために、コンピュータを使う



出典 OECD生徒の学習到達度調査(PISA2018)「ICT活用調査」

ICTを活用した学習に関する他の指標も軒並み最下位

● 学校外での平日のデジタル機器の利用状況 (青色帯は日本の、★はOECD平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計)



学校外におけるICT機器の平日の利用状況

日本の子どもたちは、家庭での子どもたちの自主的な使用が先行し、チャットやゲームなど「遊び」に多く使われているが、「宿題をする」「学校の勉強のためにインターネット上のサイトを見る」など学校や家庭での学習にICT機器を活用している者の割合が非常に低い。(OECD生徒の学習到達度調査PISA2018の結果)

出典：「OECD生徒の学習到達度調査2018年調査 (PISA2018) のポイント」から作成

学校・家庭ともに、学習面におけるICT活用の促進の必要性

OECD生徒の学習到達度調査（PISA2018）の結果

日本の生徒の正答率が低い問題の一例

◆【①情報を探し出す】や【③評価し、熟考する】に関する問題【2018年調査新規問題】

ある商品について、販売元の企業とオンライン雑誌という異なる立場から発信された複数の課題文から必要な情報を探し出したり、それぞれの意図を考えながら、主張や情報の質と信ぴょう性を評価した上で、自分がどう対処するかを説明したりする問題。

大問

◆課題文1：企業のWebサイト (商品の安全性を宣伝)

問1：字句や内容を理解する
問2：記載内容の質と信ぴょう性を評価する(自由記述)

◆課題文2：オンライン雑誌記事 (商品の安全性について別の見解)

問3：課題文の内容形式を考える
問4：必要な情報がどのWebサイトに記載されているか推測し探し出す
【測定する能力①情報を探し出す】

◆課題文1と2を比較対照

問5：両文章の異同を確認する
問6：情報の質と信ぴょう性を評価し自分ならどう対処するか、根拠を示して説明する(自由記述)
【測定する能力③評価し、熟考する】

※問4や問6のような問題において、日本の生徒の正答率がOECD平均と比べて低い 4

出典：OECD生徒の学習到達度調査2018年調査（PISA2018）のポイント

PISA2018年調査（読解力分野）における問題の一例

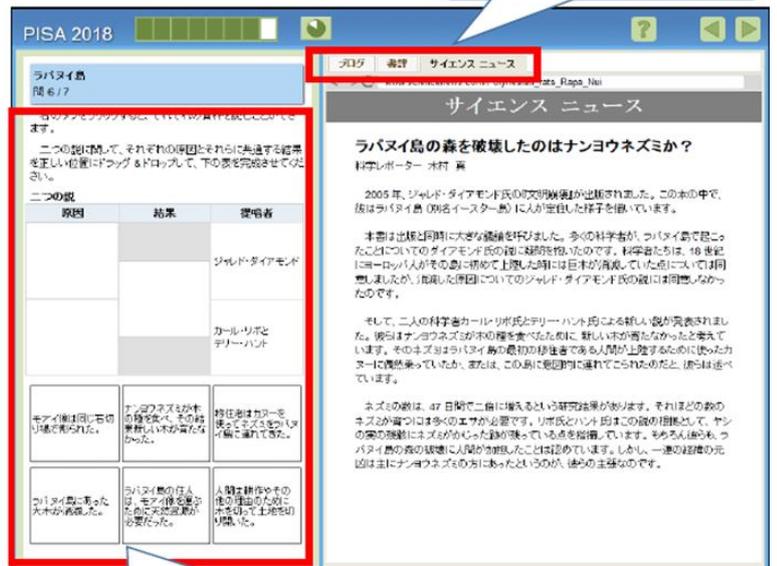
3種類の課題文で構成： ○大学教授のブログ ○書評 ○オンライン科学雑誌の記事

問1



問1 【測定する能力 ①情報を探し出す】
ある大学教授のブログを画面をスクロールして読んだ上で、教授がフィールドワークを始めた時期を選択して解答する。

問6



問6 【測定する能力 ②理解する】
2つの説に関する原因と結果を選択肢から選び、ドラッグ&ドロップ操作によりそれぞれ正しい位置に移動させ、表を完成させる。

タブをクリックし、画面表示する課題文を選ぶ。

各教科等における情報活用能力の育成の必要性

出典：「『GIGAスクール構想の実現とは』～学校情報化の目的と概略～」から作成

情報活用能力を育成するために……



【情報活用能力の体系表例】（左の欄には各教科の学習目標にスタッフ別に記載したものを、右の欄は各教科の学習目標）

教科	学習目標	情報活用能力の育成目標
国語	文章の構成や表現の工夫を読み取る力	① 必要な情報を迅速に検索する力
算数	数や図形の性質や関係を読み取る力	② 必要な情報を迅速に検索する力
理科	自然現象の仕組みや変化を読み取る力	③ 必要な情報を迅速に検索する力
社会	社会の仕組みや変化を読み取る力	④ 必要な情報を迅速に検索する力
外国語	外国語の表現や文化を読み取る力	⑤ 必要な情報を迅速に検索する力
総合	総合的な学習の力を育てる	⑥ 必要な情報を迅速に検索する力
道徳	道徳的価値観を育てる	⑦ 必要な情報を迅速に検索する力
体育	体育的価値観を育てる	⑧ 必要な情報を迅速に検索する力
芸術	芸術的価値観を育てる	⑨ 必要な情報を迅速に検索する力
特別支援	特別支援教育の力を育てる	⑩ 必要な情報を迅速に検索する力



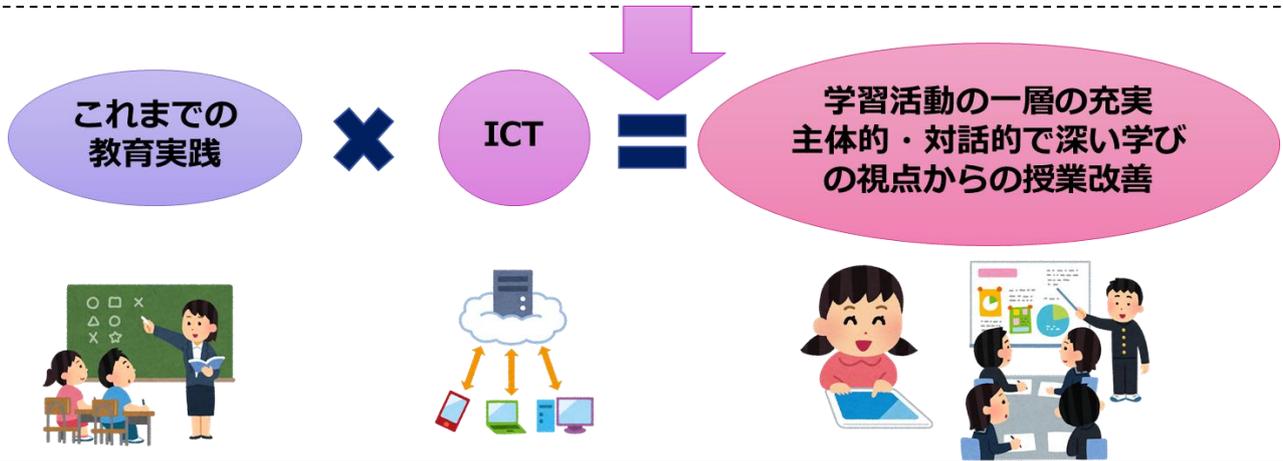
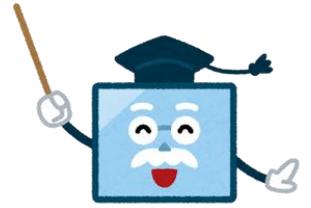
令和 年度 福生市立〇〇学校 情報活用能力育成 年間計画

第 学年	情報活用能力育成の重点目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	1. 情報と情報技術 ① 情報技術に関する知識を適切に活用するための知識と技能 ② 情報の取寄せの理解 ③ 情報の取寄せの理解												
	2. 問題解決・探究 ① 情報と情報技術の活用方法の理解 ② 情報と情報技術の活用方法の理解 ③ 情報と情報技術の活用方法の理解												
	3. 情報モラル・情報セキュリティ ① 情報モラル・情報セキュリティの理解 ② 情報モラル・情報セキュリティの理解												
第2学年	1. 問題解決・探究 ① 必要と情報とその他の情報の取寄せの理解 ② 必要と情報とその他の情報の取寄せの理解 ③ 必要と情報とその他の情報の取寄せの理解												
	2. 情報モラル・情報セキュリティ ① 必要と情報とその他の情報の取寄せの理解 ② 必要と情報とその他の情報の取寄せの理解												
第3学年	1. 問題解決・探究 ① 必要と情報とその他の情報の取寄せの理解 ② 必要と情報とその他の情報の取寄せの理解												
	2. 情報モラル・情報セキュリティ ① 必要と情報とその他の情報の取寄せの理解 ② 必要と情報とその他の情報の取寄せの理解												

全教科等で情報活用能力を育むため、年間指導計画の作成を！

GIGAスクール構想の実現で変わる子どもたちの学び

- Society5.0時代を生きる子どもたちにとって、**ICT端末は、鉛筆やノートと並ぶマストアイテム！**
- 社会では、**ICTの活用が日常のもの**となっている中で、**子どもたちの可能性を広げる学校が時代に取り残され、世界から遅れたままではられません！**



タブレット端末を活用して、指導観の変革！授業改善を！！



先生が教える
インプット中心

こうなります！

子どもが学ぶ
アウトプット中心



	一人一台端末ではない環境	一人一台端末の環境
一斉学習	<ul style="list-style-type: none"> 先生がモニターを用いて説明し、子どもたちの興味・関心を高めることができる (限定された子どもの反応が中心の一斉学習) 	<ul style="list-style-type: none"> 先生は授業中でも、一人一人の反応を把握できる ⇒子どもたち一人一人の反応を踏まえた双方向型の一斉授業が可能に！
個別学習	<ul style="list-style-type: none"> 全員が同時に同じ内容を学習する(原則、全ての子どもたちが同じ内容の個別学習、紙媒体での学習ログ) 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が同時に別々の内容を学習できる 一人一人の学習履歴が自動的に記録される ⇒一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能に！
協働学習	<ul style="list-style-type: none"> グループ発表は可能だが、自分独自の意見は発信しにくい (一部の子どもリードによって進められる協働学習) 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が記事や動画等を集め、独自の視点で情報を編集できる 一人一人の考えを即時に共有し、協働編集ができる ⇒全ての子どもが情報の編集を経験しつつ、多様な意見にも即時に触れることが可能に！

GIGAスクール構想の実現で変わる子どもたちの学び

インターネットでの情報収集



自分の考えを整理



友達と意見の共有



ICTによる資料や作品の製作・発表



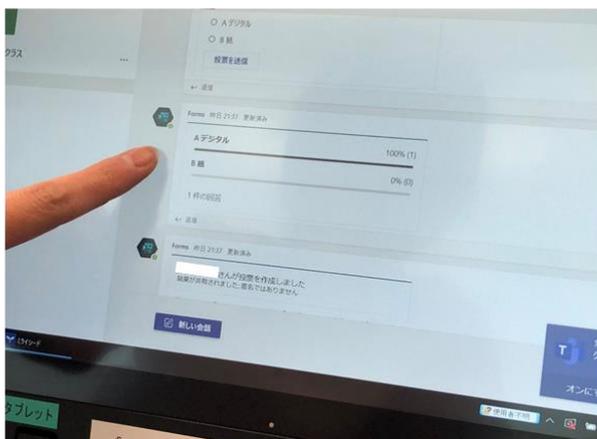
音読を録音して自分たちで確認



アニメーション・動画の作成



アンケート調査・小テストの実施



保護者への連絡としての活用



GIGAスクール構想の実現で変わる子どもたちの学び

始業式・終業式



委員会活動



修学旅行・校外学習



通学が困難な場合の対応



まずは端末を子どもたちが自由に使うことから始めてみましょう！

大人も分からないことがあったらスマートフォンや端末で調べますよね！

子どもたちが**問題解決のために、自由に、そして自在に端末を活用できる令和のスタンダードな学習環境づくり**を！

教師からの配信（送信）

連絡事項・課題・ワークシート・URLの配信



分からないことがあったら、自分の判断ですぐにiPadを出して調べられる環境に！

学習だけでなく、スケジュール管理も！まずは、帰りの会の振り返りや連絡帳の代わりに活用！

困ったことが出てきたら、子どもたちからの**主体的なルールづくり**を！ルールを押し付けない！

子供たちからの回収（受信）

回答・質問・授業の振り返り・感想・小テストの提出

GIGAスクール構想の実現で変わる子どもたちの学び

今まで…

学習に必要なページや動画が見られない。

フィルタリングが厳しすぎて、調べ学習で調べたいことが調べられない。

授業中に、勝手に子供たちが端末を使うから制御しなきゃ。

児童機は、40台しかないから、使いたいときに使えないな…。



これから…

自分で自分の端末を管理しよう！
(パスワード、時間制限、検索内容、充電、Safariタブの管理等)

タブレットを文房具として
使わせることができる！

情報活用能力の育成に取り組もう！
(基本的な操作、情報モラル・情報セキュリティ、問題解決・探究における情報活用、プログラミング)

自分の調べたいことが
調べられる！

調べた資料を保存して
おこう！

ネット犯罪などの危険を回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導できる！



設定について

◆基本方針：必要最低限のフィルタリングや設定とし、子どもたちが主体的にICTを活用できるようにするとともに、子どもたちの創造的な活動を広げられるようにする。

 Safariの使用 OK

有用なWebサービスを閲覧できる
ことでメリットの方が大きい。

 Clips  iMovie  OK 

動画編集アプリ等を使用可能とし、
子どもたちの創造性を育むため。

 YouTubeの閲覧 OK

有用な動画をブロックすることによる
学習機会の損失があるため。

✓ 必要最低限のフィルタリングにするため、学習上不要と思われる情報が表示される可能性もある。

- タブレット端末ごとに、WEBを閲覧した内容、通信量を把握できるため、学校から保護者等へ連絡するなどの指導ができる。
- 指導することによって、子どもたちが適切な使い方を学ぶ機会を得ることができる。

端末を使用するための留意事項

1 家庭学習について

Microsoft365やミライシード等を用いて、タブレット端末に課題を出したり、文書や動画、音声ファイル等の成果物をタブレット端末を通じて提出したりすることができます。

また、学習の習熟のために、「ミライシード」の「ドリルパーク」を活用することもできます。

紙のドリルから、積極的にドリルパークを活用するようにしてください（小学校は4教科、中学校は5教科に対応）。

このことにより、採点時間の削減や、全体や個々の学習状況の把握・分析、学習状況を瞬時に可視化することができます。

学習状況の把握



指導に生かす



2 持ち帰り・充電について

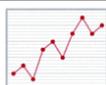


毎日の家庭学習等への取組として、家庭に持ち帰ることを基本としています。

また、学校での学習活動に支障が生じることのないよう、毎日、家庭で充電するように、子どもたちへの指導をお願いいたします。

※ 充電をし忘れた場合に備えて、各学校にいくつかの充電器は用意する予定です。

4 使用状況の確認について



タブレット端末ごとに通信量及び閲覧履歴を把握しています。月一回業者からのフィードバックがあり、通信量が多い場合、学校へお知らせいたします。健康状態の確認など、学校から家庭への連絡をお願いします。

また、家庭でも、使用時間や使用環境など、ルールを子どもたちと話し合って決め、使用状況については把握するよう、保護者会等で以下の資料を使うなどして、説明をお願いします。

※参考：「SNS東京ノート」⇒⇒⇒
保護者のみなさまへ
家庭のルールを考えよう



6 破損・紛失した場合について

端末を破損した場合は、修理に出すため、学校からヘルプデスクへ連絡してください。修理の間は、予備の端末を貸し出します。紛失の場合は、紛失盗難届が必要になります。警察へも連絡するよう保護者に伝えてください。

なお、充電アダプタやケーブルなどの付属品が、故障した場合は、自宅にあるもので代用します。

万一、自宅に代用品がない場合は、教育委員会に御連絡ください。



7 返却について



中学校を卒業するまでは子どもたちは「自分用」のタブレットとして使います。福生市からの貸与となりますので、大切に使うように指導をお願いします。

中学校卒業時には端末本体の他、付属品も学校に返却します。

市内の中学校に進学しない場合も、小学校卒業時に返却させてください。

8 学習支援クラウド等について

- iPadの貸与に併せて2種類のアカウントを児童・生徒に配布しております。
- 配布されたアカウントはiPadと同様、アカウントは卒業まで使用します。
- 児童・生徒がID・パスワードを他人に教えることなどしないよう、指導してください。
(情報活用能力体系表C-2-①-a)
- 学習支援クラウド等は学校だけでなく、家庭学習にも活用してください。
- 卒業、転校時にはアカウントを削除いたしますので、内部のデータは残りません。

① 「Microsoft365」

Microsoft365とは、主に以下のソフトを備えた学習支援クラウドです。

Teams



- 目的に応じたグループ（各学級、各教科、各委員会等）の中で、課題の投稿や返却、教材や資料の共有、連絡事項の発信、チャット等を一か所で行うことができるツールです。Officeの様々なサービスを活用した学習支援の拠点となります。
- 離れた場所にいる教員等と児童・生徒をつなぎ、オンライン学習（ビデオ会議）ができます。臨時休業時における双方向型のオンライン学習を実施できます。

Word, Excel, PowerPoint



- 配布プリントやレポートの作成、データ整理とグラフ化、授業スライドや発表資料を作成できます。
- リアルタイムにて複数人による同時編集が可能であり、協働的な学びを行うことができます。

Forms



- インターネット上でアンケートや投票などが行えるツールです。回答を回収すると、自動的に集計される機能を搭載しています。
- 授業の理解度確認のためのアンケート、欠席確認、授業後アンケートなどで使用できます。

OneDrive



- 文書・写真・動画等の保存等ができます。
- フォルダやファイルごとに、他のユーザーの閲覧や編集を許可できます。



◆ 他にもいくつかの機能が
あります。



② 「ミライシード」

ミライシードは、ベネッセコーポレーションが提供する学習支援ソフト（個別学習ドリル・協働学習支援ソフト）です。

ドリルパーク

個々に合ったレベル・ペースで学ぶことができる個別学習ドリルです。



オクリンク

発表資料の作成や子ども同士の協働制作が可能なツールです。



ムーブノート

一人一人の意見をクラス全員に共有できるツールです。





GIGAスクールとは何ですか？

文部科学省が提唱するこれからの時代を生き抜く全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを実現させるためのICTを中心とした環境整備（一人一台端末・高速大容量通信ネットワーク・学習支援クラウド）のことで。

※ GIGA=Global and Innovation Gateway for All
（全ての人々にグローバルで革新的な世界への入口を）



家にiPadを持ち帰って、何をするのですか？

家庭への持ち帰りは、子どもたちがiPadをノートや鉛筆と同じ「学び」の一つのツールとして使いこなすための一貫した取組です。

家庭では、ノートやプリントで学習していたように、学習用iPadで宿題や課題に取り組みます。

デジタルドリル（ドリルパーク）は自動採点機能がついていたり、福生市学力・学習状況調査の結果を基にした一人一人の苦手に応じたカリキュラムが自動生成されたりするなど、個別最適な学びを実現できます。また、**レポートやプレゼンテーション作成、調べ学習**など、「情報活用能力」を育む課題が学校から課されることもあります。

臨時休業等の際には、家庭から**オンライン会議（Teams）**を行い、オンライン朝の会やオンライン学級活動、オンライン学習等に取り組むことを想定しています。



もし、使用中にiPadを破損してしまったら、どうすればいいですか？

破損や紛失等の場合には、**ヘルプデスク**へ連絡してください。（GIGAスクール端末確認事項参照）
修理期間中は**予備の端末が貸し出されますが、大切に使用するよう、学校でも御指導をお願いします。**



遊びに使ったり、インターネットを見過ぎたりするのではないですか？

全ての端末に**フィルタリング**を設定して、有害サイトなどをブロックしています。

目指すのは、子どもたちが**自律的に利用をコントロール**できるようになることです。そのために、各校で作成した「**情報活用能力育成 年間指導計画**」に基づき、指導をお願いします。

また、ぜひ、この機会に、**家庭のICT利用について話し合う機会**を設けてみるよう、保護者への周知をお願いします。

※家庭のルールを考えるときに参考に
するよう保護者に啓発してください。
※授業で活用できる教材も多く掲載
されています。ぜひ活用を。

「SNS東京ノート」⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒

保護者のみなさまへ P19～P26
家庭のルールを考えよう

